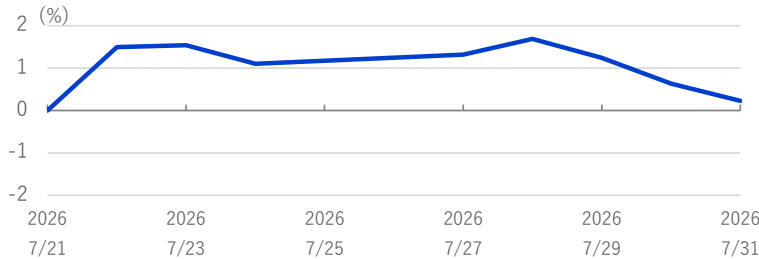


AIおまかせコース

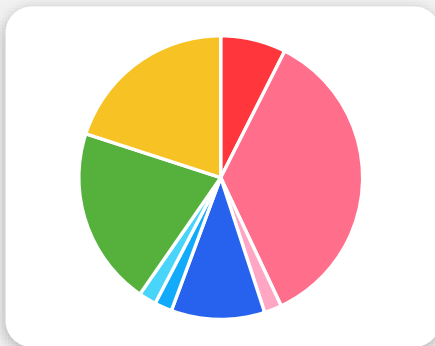
モデルポートフォリオのパフォーマンス



期間	計算期間開始日	AIおまかせコース
1ヵ月	-	-
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	0.22%

※1 グラフが示す「ファンドラップAXIS AIおまかせコース」（以下、「AIおまかせコース」ともいいます）の運用実績は、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年7月31日まで、「AIおまかせコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定し、分配金は投資の拠出金に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。計算期間開始日から2026年7月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬1.87%（年率、税込）を考慮のうえ、「 $(\text{計算期間終了日時価} / \text{計算期間開始日時価}) - 1$ 」で計算した値を％で表示しています。表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

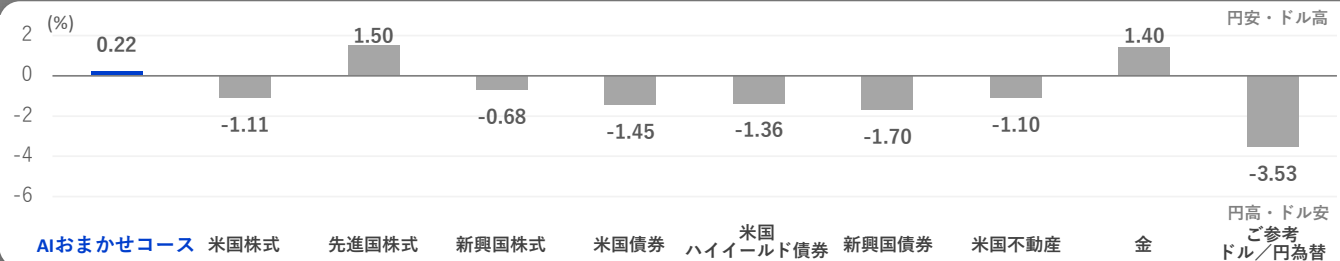
2026/7/21の運用開始日時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率（％）
米国株式	（ラップ専用）SBI・米国株式	7.45%
先進国株式	（ラップ専用）SBI・先進国株式	35.54%
新興国株式	（ラップ専用）SBI・新興国株式	2.00%
米国債券	（ラップ専用）SBI・米国債券	10.66%
米国ハイイールド債券	（ラップ専用）SBI・米国ハイイールド債券	2.00%
新興国債券	（ラップ専用）SBI・新興国債券	2.00%
米国不動産	（ラップ専用）SBI・米国不動産	20.35%
金	（ラップ専用）SBI・ゴールド	20.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の運用開始来の騰落率



※2 騰落率グラフは2026年7月21日の価額を基準に、2026年7月31日における各投資対象ファンドおよび「AIおまかせコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「 $(\text{7月31日時点の基準価額または為替レート} / \text{7月21日時点の基準価額または為替レート}) - 1$ 」で計算した値を％で表示しています。「AIおまかせコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

7月21日から月末にかけての株式市場は、AI関連企業への将来の業績やキャッシュフローに対する懸念と楽観が交錯して、神経質な値動きとなりました。また、月末に日本の政府・日銀の円買い介入が実施され、急激に円高・ドル安が進みました。こうした環境のもと、投資対象ファンドでは「先進国株式」と「金」が上昇し、その他の6ファンドは下落しました。

そのような投資環境下で、「AIおまかせコース」は運用を開始した7月21日時点で「先進国株式」、「米国不動産」や「金」を比較的多く保有する投資配分としていました。

その結果、円高・ドル安の影響もあり「米国不動産」や「米国債券」等の保有がマイナスに影響しましたが、上昇した「先進国株式」や「金」を比較的多く保有していたことなどが寄与して、運用開始来のパフォーマンスは+0.22%となりました。

AIおまかせコース

2026年8月のリバランス

2026年8月に実施したリバランス時点で参照した、AIによる各資産のリターン予測を確認すると、「米国株式」や「先進国株式」の見通しが高位となった一方、債券資産や「金」については相対的に低位な見通しとなりました。

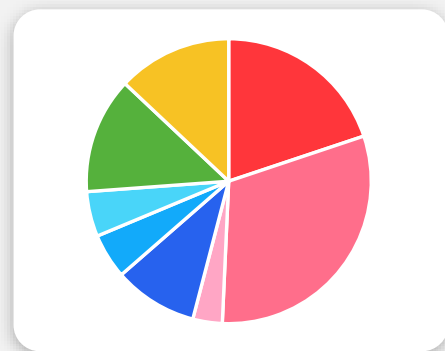
その結果、「AIおまかせコース」は、主に「米国不動産」や「金」の保有を減らして「米国株式」を増やし、より株式資産に対して積極的な投資配分となっています。

「米国株式」は、中東情勢の混迷でエネルギー価格が大きく変動したことが、特に見通しにプラスの影響を与えました。米国のエネルギー自給率が他の主要国と比較して高いことなどが、米国株式の相対的な優位性の背景にあると見られます。

「米国不動産」は足もとで値動きが相対的に堅調に推移していたこと等から過熱感が意識され、「金」は中東不安を背景に原油価格が中長期的に大きく変動していることなどがマイナスに影響し、見通しが後退したため配分を減らしました。

「AIおまかせコース」は、今後も市場動向の変化に応じて投資配分を変更することで、パフォーマンスの最大化を目指します。

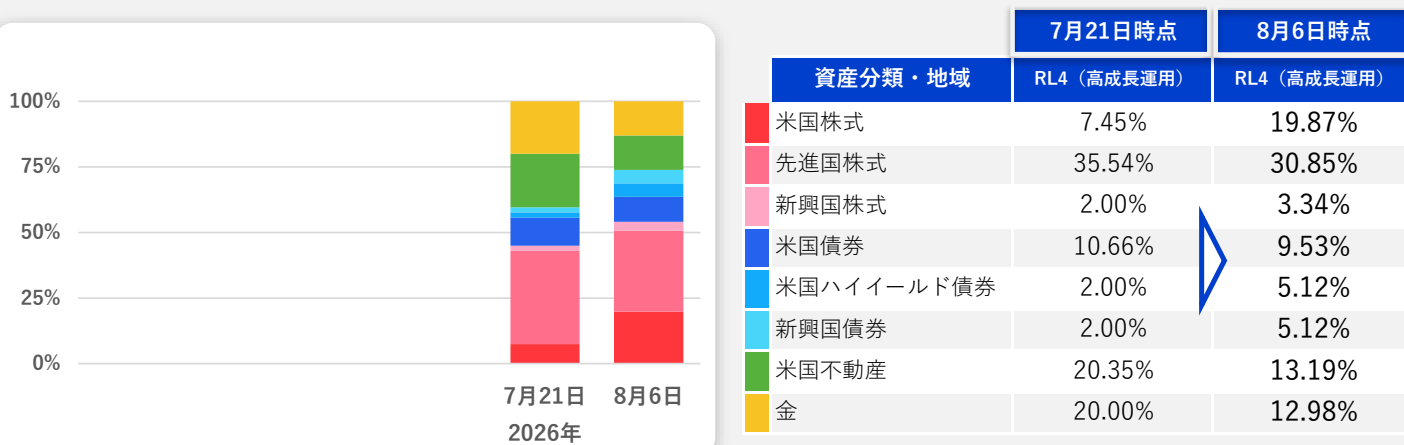
2026/8/6のリバランス時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	19.87%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	30.85%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	3.34%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	9.53%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	5.12%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	5.12%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	13.19%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	12.98%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

直近のモデルポートフォリオの投資配分推移



資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

※3 ポートフォリオのリスクレベル (RL) は、リスク資産 (米国株式、先進国株式、新興国株式、米国不動産) の構成比率合計に基づき1～5 (低→高) の5段階で評価していますが、目安であり実際のリスク (ボラティリティ水準) とは異なる場合があります。

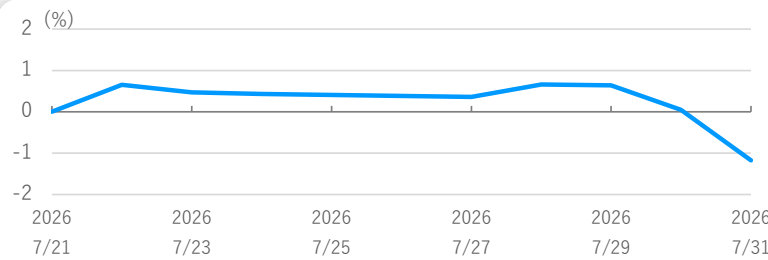
「ファンドラップ AXIS セレクトコース」を参考にして作成した、RLを評価する基準 (2026年8月6日現在) は以下の通りです。

- ・RL1 (安定運用) : 26%未満
- ・RL2 (安定成長運用) : 26%以上44%未満
- ・RL3 (成長運用) : 44%以上64%未満
- ・RL4 (高成長運用) : 64%以上76%未満
- ・RL5 (積極運用) : 76%以上

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

プラン1：安定運用

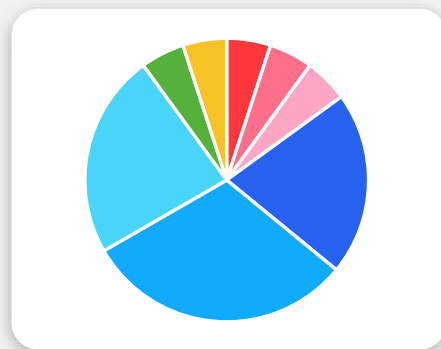


期間	計算期間開始日	1:安定運用
1ヵ月	-	-
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-1.17%

※1 グラフが示す「ファンドラップAXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年7月31日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年7月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

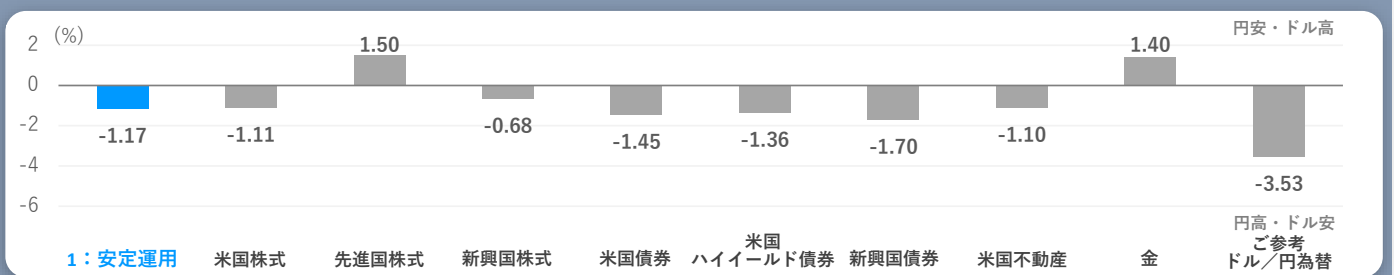
2026/7/21の運用開始日時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	5.00%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	5.00%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	5.00%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	20.92%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	30.76%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	23.32%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	5.00%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の運用開始来の騰落率



※3 騰落率グラフは2026年7月21日の基準価額を基準として、2026年7月31日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（7月31日時点の基準価額または為替レート／7月21日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

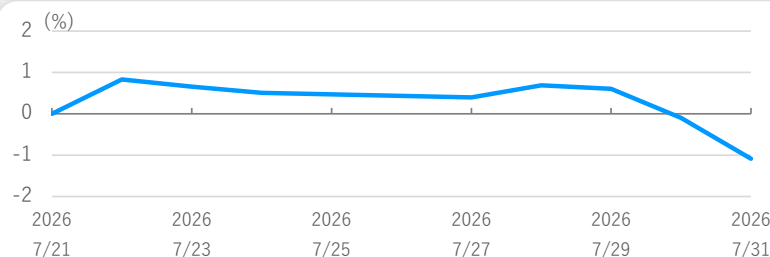
7月21日から月末にかけての株式市場は、AI関連企業への将来の業績やキャッシュフローに対する懸念と楽観が交錯して、神経質な値動きとなりました。また、月末に日本の政府・日銀の円買い介入が実施され、急激に円高・ドル安が進みました。こうした環境のもと、投資対象ファンドでは「先進国株式」と「金」が上昇し、その他の6ファンドは下落しました。

結果として、「先進国株式」や「金」の保有がプラスに寄与しましたが「米国ハイイールド債券」や「新興国債券」がマイナスに影響したため、運用開始来のパフォーマンスは -1.17%となりました。

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

プラン2：安定成長運用

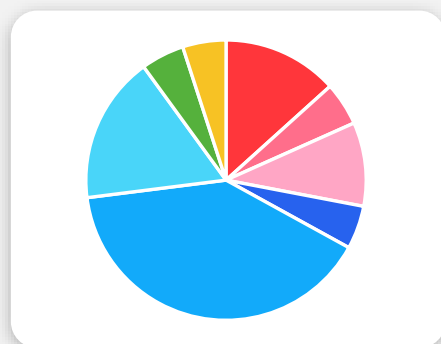


期間	計算期間開始日	2:安定成長運用
1ヵ月	-	-
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-1.08%

※1 グラフが示す「ファンドラップAXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年7月31日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年7月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬年率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/7/21の運用開始日時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	13.32%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	5.00%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	9.68%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	5.00%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	40.00%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	17.00%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	5.00%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の運用開始来の騰落率



※3 騰落率グラフは2026年7月21日の基準価額を基準として、2026年7月31日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（7月31日時点の基準価額または為替レート／7月21日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

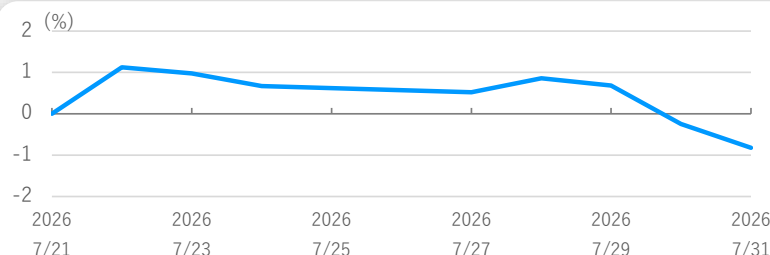
運用コメント

7月21日から月末にかけての株式市場は、AI関連企業への将来の業績やキャッシュフローに対する懸念と楽観が交錯して、神経質な値動きとなりました。また、月末に日本の政府・日銀の円買い介入が実施され、急激に円高・ドル安が進みました。こうした環境のもと、投資対象ファンドでは「先進国株式」と「金」が上昇し、その他の6ファンドは下落しました。結果として、「先進国株式」や「金」の保有がプラスに寄与しましたが「米国ハイイールド債券」や「新興国債券」がマイナスに影響したため、運用開始来のパフォーマンスは -1.08%となりました。

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

プラン3：成長運用



期間	計算期間開始日	3:成長運用
1ヵ月	-	-
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-0.82%

※1 グラフが示す「ファンドラップAXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年7月31日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）
 ※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年7月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表に表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/7/21の運用開始日時点における資産構成比率



資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の運用開始来の騰落率



※3 騰落率グラフは2026年7月21日の基準価額を基準として、2026年7月31日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（7月31日時点の基準価額または為替レート／7月21日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

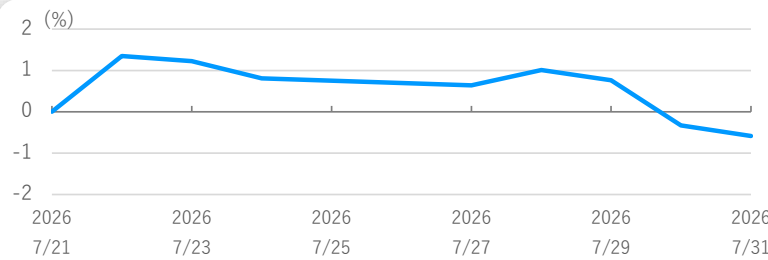
運用コメント

7月21日から月末にかけての株式市場は、AI関連企業への将来の業績やキャッシュフローに対する懸念と楽観が交錯して、神経質な値動きとなりました。また、月末に日本の政府・日銀の円買い介入が実施され、急激に円高・ドル安が進みました。こうした環境のもと、投資対象ファンドでは「先進国株式」と「金」が上昇し、その他の6ファンドは下落しました。結果として、「先進国株式」や「金」の保有がプラスに寄与しましたが「米国ハイイールド債券」や「米国株式」がマイナスに影響したため、運用開始来のパフォーマンスは -0.82%となりました。

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

プラン4：高成長運用



期間	計算期間開始日	4:高成長運用
1ヵ月	-	-
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-0.58%

※1 グラフが示す「ファンドラップAXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年7月31日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年7月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/7/21の運用開始日時点における資産構成比率



資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の運用開始来の騰落率



※3 騰落率グラフは2026年7月21日の基準価額を基準として、2026年7月31日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（7月31日時点の基準価額または為替レート／7月21日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

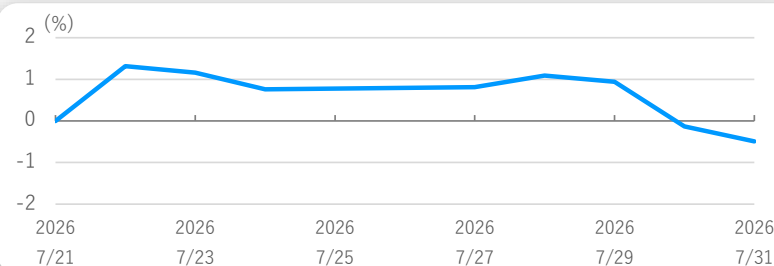
7月21日から月末にかけての株式市場は、AI関連企業への将来の業績やキャッシュフローに対する懸念と楽観が交錯して、神経質な値動きとなりました。また、月末に日本の政府・日銀の円買い介入が実施され、急激に円高・ドル安が進みました。こうした環境のもと、投資対象ファンドでは「先進国株式」と「金」が上昇し、その他の6ファンドは下落しました。

結果として、「先進国株式」や「金」の保有がプラスに寄与しましたが「米国株式」や「米国債券」がマイナスに影響したため、運用開始来のパフォーマンスは -0.58%となりました。

セレクトコース

モデルポートフォリオのパフォーマンス

プラン5：積極運用

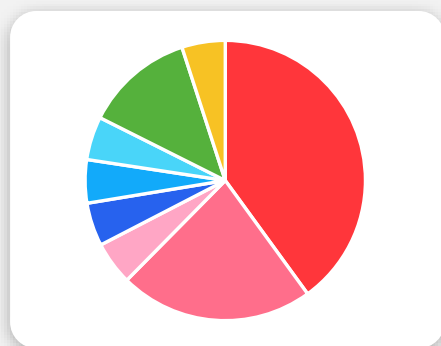


期間	計算期間開始日	5:積極運用
1ヵ月	-	-
3ヵ月	-	-
6ヵ月	-	-
1年	-	-
運用開始来	2026/7/21	-0.49%

※1 グラフが示す「ファンドラップAXIS セレクトコース」（以下、「セレクトコース」ともいいます）の運用実績について、2026年7月21日（サービスリリースした2026年7月9日に申込を行い最短で運用を開始した場合における、投資対象となる8種類の専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）の買付約定日）から2026年7月31日まで、「セレクトコース」に投資していた場合の運用実績です。リバランスは最適ポートフォリオとの乖離がないように実施したと仮定して計算しており、算出は円建てで、分配金は投資の拠出金に自動的に組み入れ、リバランスにより再投資したと仮定して計算しています。分配金やリバランス時の譲渡益にかかる税金は考慮していません。（※2）

※2 グラフおよび右表における運用実績の計算方法について、計算期間開始日から2026年7月31日までの投資対象ファンドの基準価額（信託報酬やその他の費用、投資対象ファンドを通じて保有するETFの分配金が考慮されています。）をもとに、投資一任報酬率1.87%（税込）を考慮のうえ、「（計算期間終了日時価／計算期間開始日時価）－1」で計算した値を%で表示しています。グラフおよび右表で表示している数値は年率ではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。過去の運用実績であり将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。

2026/7/21の運用開始日時点における資産構成比率



資産分類・地域	銘柄名	構成比率 (%)
米国株式	(ラップ専用) SBI・米国株式	40.00%
先進国株式	(ラップ専用) SBI・先進国株式	22.40%
新興国株式	(ラップ専用) SBI・新興国株式	5.00%
米国債券	(ラップ専用) SBI・米国債券	5.00%
米国ハイイールド債券	(ラップ専用) SBI・米国ハイイールド債券	5.00%
新興国債券	(ラップ専用) SBI・新興国債券	5.00%
米国不動産	(ラップ専用) SBI・米国不動産	12.60%
金	(ラップ専用) SBI・ゴールド	5.00%

資産構成比率の数値は、小数第3位以下を切り捨てて表示しているため、合計が100%にならない場合があります。上記の数値はリバランス実施時に目標とする資産構成比率であり、実際の運用では市場変動等の影響により表示の数値と乖離が発生することがあります。

各資産の運用開始来の騰落率



※3 騰落率グラフは2026年7月21日の基準価額を基準として、2026年7月31日における各投資対象ファンドおよび「セレクトコース」のリターンを示したものです。各投資対象ファンドの騰落率およびドル／円為替は、「（7月31日時点の基準価額または為替レート／7月21日時点の基準価額または為替レート）－1」で計算した値を%で表示しています。「セレクトコース」のリターンの算出方法については、※1をご参照ください。表示している数値は年率ではありません。将来の運用成果等を示唆又は保証するものではありません。計算後の数値の小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

運用コメント

7月21日から月末にかけての株式市場は、AI関連企業への将来の業績やキャッシュフローに対する懸念と楽観が交錯して、神経質な値動きとなりました。また、月末に日本の政府・日銀の円買い介入が実施され、急激に円高・ドル安が進みました。こうした環境のもと、投資対象ファンドでは「先進国株式」と「金」が上昇し、その他の6ファンドは下落しました。

結果として、「先進国株式」や「金」の保有がプラスに寄与しましたが「米国株式」や「米国不動産」がマイナスに影響したため、運用開始来のパフォーマンスは -0.49%となりました。

市場概況

レポート作成月：2026年8月

●米国市場概況

(現地通貨ベース)

代表的な指数	26年6月末	26年7月末	前月末比
S&P500	7,499.36	7,489.72	-0.12%

米国株式市場の指標であるS&P500は月初、雇用者数の下振れによる利上げ観測の後退や中東情勢の緊張緩和に伴う原油安などを受けて、堅調に推移しました。しかし、中旬に入ると、米国とイランの対立が再燃して原油高に転じ、インフレ懸念から早期利上げが警戒されたことに加え、中国企業による低価格・高性能なAIモデルの発表や、メモリ半導体産業の競争激化、AI関連向け設備投資の採算性などを不安視する見方が強まり反落しました。下旬に入っても、米巨大テック企業による「キャッシュバーン」と呼ばれる現金流出への警戒感の高まりなども重なって大きく下落する場面がありましたが、決算でAI関連需要の底堅さが確認されると、月末にかけて株価は急速に持ち直して、最終的に前月比-0.12%となりました。

●先進国市場概況（米国を除く）

(現地通貨ベース)

代表的な指数	26年6月末	26年7月末	前月末比
TOPIX	3,994.76	4,003.30	0.21%
ストックス欧州600指数	641.73	649.19	1.16%

日本株式市場の指標であるTOPIXは上旬、米利上げ観測の後退などで上昇しましたが、中旬はメモリ半導体の競争激化懸念による近隣アジア市場の急落等で反落しました。下旬は、AI関連株が乱高下する中、日銀早期利上げ観測を受け上昇した銀行株等が下支えしましたが、令和8年熊本地震による供給懸念もあり半導体株を中心に下落しました。月末には米テック企業の好決算で再び反発し、最終的に前月比+0.21%となりました。

欧州株式市場の指標であるストックス欧州600指数は上旬、米利上げ観測の後退などを受けて上昇しました。中旬は半導体の先行き懸念等が上値を抑えたものの、公益株や石油株の支えで底堅く推移しました。下旬はECB（欧州中央銀行）の政策金利据え置きや好決算等が好感され上昇し、最終的に前月比+1.16%となりました。

●新興国市場概況

(現地通貨ベース)

代表的な指数	26年6月末	26年7月末	前月末比
上海総合指数	4,094.39	3,832.26	-6.40%
インドSENSEX	76,478.67	78,094.64	2.11%

中国株式市場の指標である上海総合指数は上旬、主要統計の発表を控え様子見ムードでしたが、中旬に入ると、中東情勢の悪化や世界的な半導体関連株の急落、経済統計の低迷などが影響し軟調に推移しました。下旬は、政治局会議を前に政策期待が高まり下値を支えましたが、大規模な追加刺激策が示されなかったこともあり回復は限定的となり、最終的に前月比-6.40%となりました。

インド株式市場の指標であるインドSENSEXは上旬、原油価格の落ち着きや米利上げ観測後退などで堅調に推移しました。中旬以降は、中東情勢の緊迫化による原油高や米国の後発医薬品への新たな関税措置などが上値を抑えましたが、原油高の一服やAI関連比率が低いインドのテック株への資金流入などから月末にかけて持ち直し、最終的に前月比+2.11%となりました。

●為替・その他

代表的な通貨・金利	26年6月末	26年7月末	前月末比
ドル/円 為替レート	162.55	157.40	-3.16%
米国10年債利回り(%)	4.4652	4.7347	0.2695pt

ドル/円相場は、中東不安の高まりによる有事のドル買いや原油高による米利上げ観測の高まりに加えて、日本政府の財政拡張姿勢などが「骨太ショック」と呼ばれた円売り材料となり、23日に163.99円と約39年8か月ぶりの円安水準となりました。しかし、月末に日米通貨当局が円買い介入を実施したことで157円台まで円高が進み、最終的に前月比3.16%の円高・ドル安となりました。

米国10年債利回りは上旬、米非農業部門雇用者数の下振れなどを受けて4.5%前後で推移しましたが、原油高によるインフレ懸念の再燃で上昇基調に転じました。さらにFRB（米連邦準備制度理事会）が政策金利を据え置くと、金融政策が後手に回り、インフレが高止まりするとの警戒もあり一段と上昇し、最終的に2025年1月以来の高水準となる4.73%台で月末を迎えました。

投資環境に関する過去の事実等の情報提供や、発行時点での投資環境やその見通しに関する見解を紹介するために株式会社FOLIOが作成した資料です。記載内容は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を示唆又は保証するものではありません。信頼できると考えられる情報を用いて作成しておりますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

各指数等のデータはBloombergが提供する値を用いています。表示されている値（米国10年債利回りを除く）は、小数第3位以下を切り捨てています。

「ファンドラップ AXIS」に関するご注意事項

- 「ファンドラップ AXIS」は、あかつき証券株式会社（以下「あかつき証券」といいます。）が、FOLIOを代理して、お客さまとFOLIOとの本サービスに係る投資一任契約の締結を行います。また、あかつき証券の委託を受けた金融商品仲介業者は、あかつき証券がFOLIOを代理して行うお客さまとFOLIOとの本サービスに係る投資一任契約の締結について、お客さまとあかつき証券の間の契約締結を媒介します。ただし、あかつき証券および金融商品仲介業者は、投資運用は行いません。
- 「ファンドラップ AXIS」投資一任契約にはクーリング・オフ制度は適用されません。
- 「ファンドラップ AXIS」のご利用にあたっては、一般のお取引口座である証券総合口座および本サービスの取引口座である投資一任口座の開設および投資一任契約の締結が必要です。（既にご開設済みの場合は不要です。）なお、証券総合口座の開設には、あかつき証券の審査があります。また、投資一任口座の開設及び投資一任契約の締結には、あかつき証券およびFOLIOの審査があります。したがって、審査の結果、それぞれの口座開設及び投資一任契約の締結をお断りする場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 「ファンドラップ AXIS」は投資一任契約に基づくものであるため、お客さまが自ら投資信託の個別の売買注文を行うことはできません。ご契約の締結にあたっては、契約締結前交付書面、投資対象ファンドの交付目論見書等をよくご確認いただき、ご負担いただく費用およびリスク等について十分にご理解いただき、ご自身でご判断ください。

「ファンドラップ AXIS」のリスクと費用について

- 「ファンドラップ AXIS」は投資対象となる8種類のラップ専用の投資信託（以下、「投資対象ファンド」と表示）を介して、海外ETFへ投資を行うため、次のような原因で預り資産の時価評価額は大きく変動する可能性があります。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。運用による損益はすべてお客さまに帰属します。
- 投資対象ファンドは、外国金融商品市場に上場している投資信託（ETF）を組み入れることにより運用を行いますので、金利水準、株式相場、不動産相場、商品（コモディティ）相場等の変動による組入有価証券の値動きおよび為替相場変動等に伴い、投資対象ファンドの基準価額も変動します。これらの要因により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- 投資対象ファンドに実質的に組み込まれた株式や債券等の発行者の倒産や信用状況等の悪化により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- お客さまには運用にかかる費用として、保有投資信託の時価評価額に対して1.87%（税込・年率）の「投資一任報酬」をご負担いただきます。その他に、投資対象ファンド毎に設定される「信託報酬」および「その他の費用」を間接的にご負担いただきます（信託財産留保額はかかりません）。お客さまにご負担いただく費用は、上記「投資一任報酬」と、間接的にご負担いただく「信託報酬」および「その他の費用」を足し合わせたものとなります。
- 「信託報酬」（X）は、すべての投資対象ファンドにおいて一律に、信託財産に対して0.1606%（税込・年率）がかかります。但し、投資対象ファンドを通じて投資するETFの経費率（Y）を足し合わせた“実質的な信託報酬（X+Y）”は、投資対象ファンド毎において異なります。なお、当該ETFの経費率（Y）は、0.03%~0.49%（年率）程度となります。また、「ファンドラップ AXIS」での運用にかかる“実質的な信託報酬”の合計額は、8種類の投資対象ファンドの組入状況によって異なりますが、最新の運用戦略を用いて運用を行った場合、その合計額は「AIおまかせコース」では0.22%~0.40%（年率）程度、「セレクトコース」においては0.27%~0.47%（税込・年率）程度、となります。これらの数値は2026年6月24日時点における最新の目論見書の情報をもとに記載しており、将来変更される可能性があります。実質的な信託報酬は目安であり、投資対象とするETFの投資状況等により変動します。
- 「その他の費用」として、信託財産にかかる監査報酬、信託事務の処理に要する諸費用、法定書類（目論見書、運用報告書等）の作成等にかかる費用、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管に要する費用等があります。「その他の費用」は原則としてお客さまの負担とし、信託財産の中から支払われます。なお、この費用は、運用状況等によって変動するため、事前に具体的な金額や上限額等を示すことはできません。ご負担いただく費用およびリスク等につきましては、投資一任契約に係る契約締結前交付書面、投資対象ファンドの交付目論見書等をご確認ください。

本資料は、投資環境に関する過去の事実等の情報提供や作成時点での見解を紹介するために、「ファンドラップ AXIS」の投資運用業務を行う株式会社FOLIOが作成した資料です。記載内容は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を示唆又は保証するものではありません。信頼できると考えられる情報を用いて作成しておりますが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。

- あかつき証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号
加入協会：日本証券業協会 一般社団法人 資産運用業協会
- 株式会社FOLIO
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2983号
加入協会：日本証券業協会 一般社団法人 資産運用業協会